

平成28年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体で学習への取組状況等を把握しています。また、平均正答率等、学校全体で情報を共有するとともに、分析を実施して自校の取組等の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせすることは、学校と保護者及び地域の皆様が情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、児童生徒の学力向上の取組を一層充実させることにつながると考えます。

このことを踏まえて、調査の結果をお知らせするにあたり、調査の結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 次に示す調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 平均正答率などの数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「平成28年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月19日(火)

4 調査の内容

(国語、算数・数学) 教科に関する調査	主として「知識」に関する問題 (A) ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ② 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など 【小学校国語A・算数A 各20分】 【中学校国語A・数学A 各45分】	主として「活用」に関する問題 (B) ① 知識・技能等を実生活の様々な場面で活用する力 ② 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など 【小学校国語B・算数B 各40分】 【中学校国語B・数学B 各45分】
	生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 児童生徒に対する調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語の勉強は好きですか、授業の内容はどの程度分かりますか、一日にテレビを見る時間、携帯電話等の使用時間、読書時間、勉強時間の状況 など 【小学校・中学校とも20分程度】	学校に対する調査 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況 など

本校の調査結果の概況

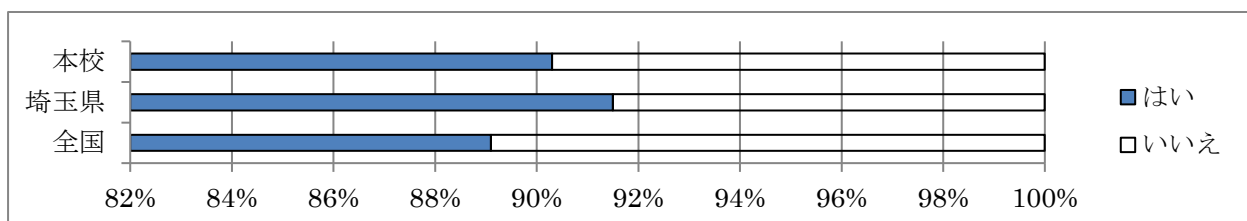
国語	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等								
話すこと・聞くこと	6	78.1%	77.4%	78.9%	0	-	-	-
書くこと	4	75.0%	72.5%	73.7%	3	57.2%	57.0%	58.3%
読むこと	6	81.2%	77.7%	78.6%	9	68.6%	65.6%	66.5%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	72.8%	73.7%	73.9%	0	-	-	-

数学	A (主として「知識」に関する問題)				B (主として「活用」に関する問題)			
	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
学習指導要領の領域								
数と式	12	66.2%	64.3%	65.9%	6	54.5%	50.5%	51.5%
図形	12	68.9%	65.4%	67.1%	2	37.0%	34.4%	33.3%
関数	8	53.0%	49.4%	52.0%	5	40.5%	39.9%	41.4%
資料の活用	4	57.6%	54.5%	56.5%	2	41.8%	38.4%	39.3%

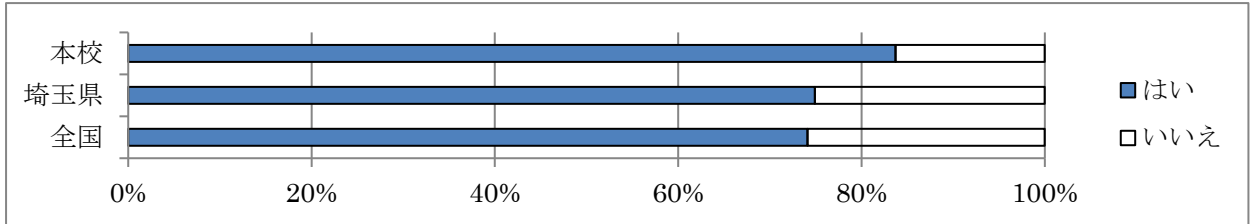
<生徒への質問紙調査> (主なものをグラフで表示)

国語の勉強は大切だと思いますか。

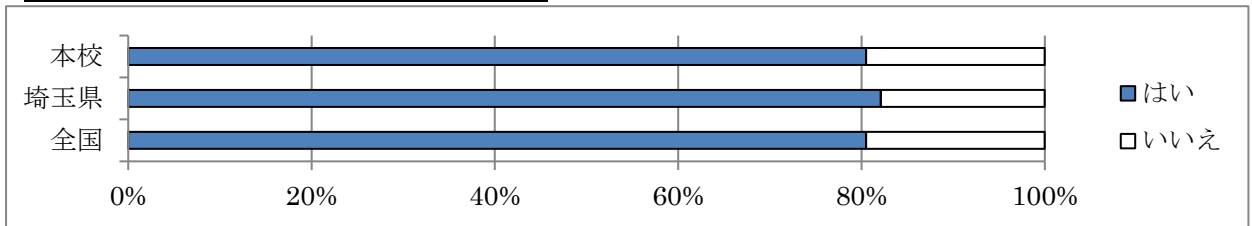
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



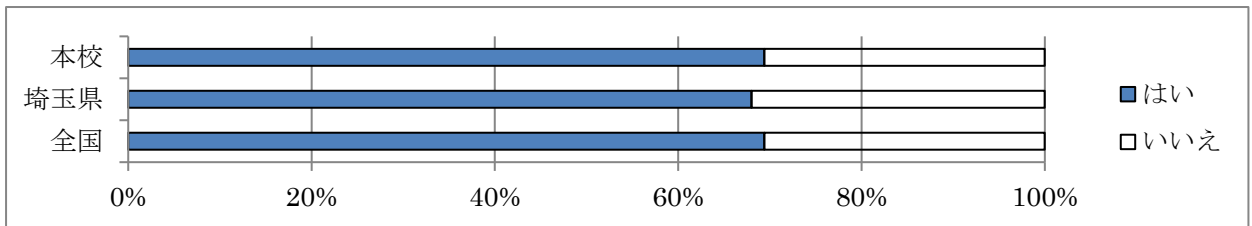
国語の授業内容はよく分かりますか。



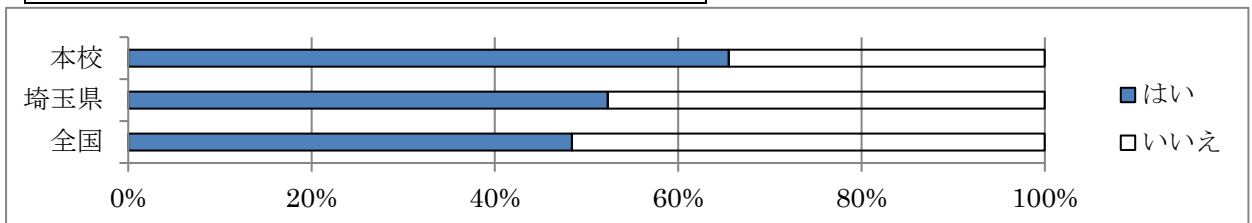
数学の勉強は大切だと思いますか。



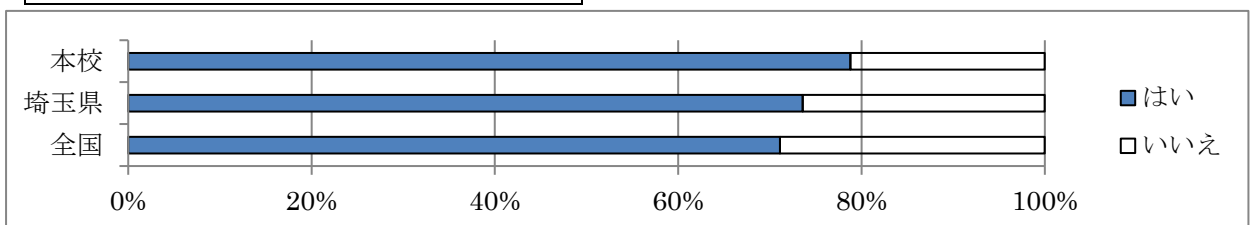
数学の授業内容はよく分かりますか。



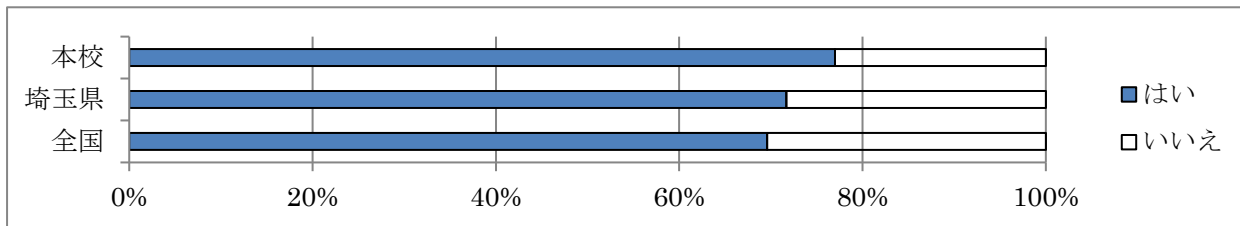
家で自分で計画を立てて勉強していますか。



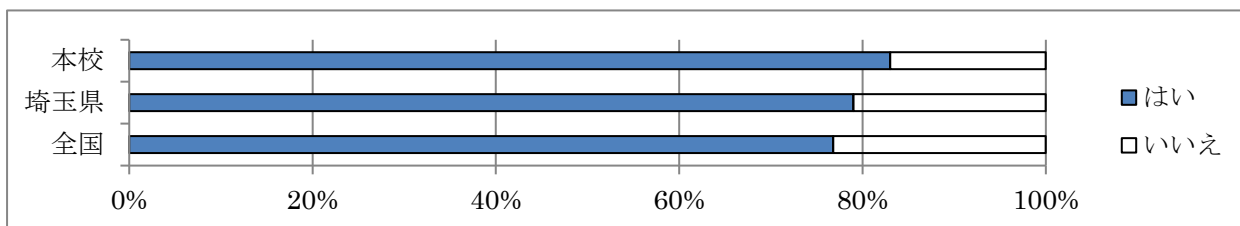
将来の夢や目標を持っていますか。



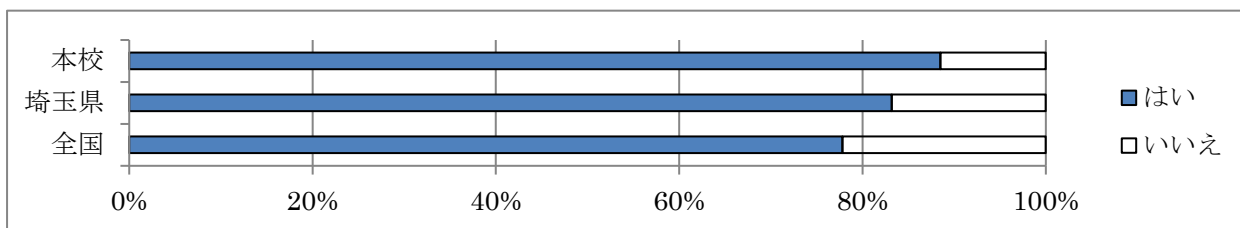
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。



1, 2年のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていたと思いますか。



1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国語A>

【領域別】

- 「書くこと」「読むこと」は、全国の平均を上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国の平均を若干下回っています。ただし、「話すこと・聞くこと」は埼玉県の前回は上回っています。

【問題（例）】

問題例

【不思議な機能】とありますが、ここではどのような機能のことですか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

正答 3

【正答率】	全国	81.3
	県	80.4
	本校	88.5

【無答率】	全国	0.4
	県	0.4
	本校	0.0

【分析】

文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに優れている。

日頃の説明的文章において、接続詞等に注目させ、読ませている効果が出ていると考えられる。また、無答率が全国平均、県平均を下回り、0%という結果も立派である。

【問題（例）】

問題例

大川さんは、意見発表会の題名の下書き【A】を、【B】のように書き直しました。どのように書き直しましたか。改善点の説明として適切なものを、あとの1から5までの中から二つ選びなさい。

正答 2・5

【正答率】	全国	36.4
	県	41.1
	本校	27.9

【無答率】	全国	1.2
	県	1.1
	本校	2.4

【分析】

記号で答える問題でありながら、無答率は全国平均、県平均を上回っていることから、問題の内容を理解できていなかった生徒がいることがわかる。東中学校の生徒は答えようとする生徒が多いので、文章から読み取る必要がある。

日頃から、文字の形や大きさ、配列に注意して板書を書いたり、生徒にも見やすく、わかりやすい工夫などを伝えたりして、丁寧な字を心がけさせていく。

<国語B>

【領域別】

- 「読むこと」は全国の平均を上回っています。
- 「書くこと」は全国の平均を若干下回っています。

【問題（例）】

問題例

高橋さんは、【雑誌の記事】の内容を次のような情報カードにまとめています。□に当てはまる内容として適切なものを、次の1から5までの中から二つ選びなさい。

正答 2・4

【正答率】 全国 64.0

県 63.9

本校 70.9

【無答率】 全国 0.3

県 0.3

本校 0.0

【分析】

目的に応じて文章を要約することができる生徒が多い。

日頃から、文章の要約、キャッチコピー等を考える活動を多く行った結果と考えられる。

また、無答率が全国平均、県平均を下回り、0%という結果も立派である。

【問題（例）】

問題例

博物館のちらし（表）と博物館のちらし（裏）には、それぞれどのような表現の工夫がありますか。また、それらにはどのような効果があると思いますか。あなたの考えを、次の条件1から条件3に従って書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に加えたりしてもかまいません。

条件1 【表は、・・・裏は、・・・】という形で書くこと。

条件2 表現の工夫と、その効果を具体的に書くこと。

条件3 四十字以上、八十字以内で書くこと。

【正答率】 全国 68.0

県 65.4

本校 61.8

【無答率】 全国 7.8

県 7.9

本校 3.6

【分析】

無答率は全国平均、県平均を下回り、何とか答えようと努力する生徒が多いことがわかる。

その一方で、条件に従って答えられていない生徒がいるので、今後は条件作文や字数制限等で、条件に従って答える取り組みをしていきたい。

<数学A>

【領域別】

○全領域で全国平均を上回っている。

その中でも、図形領域の問題の正答率が高く習熟されていることがわかります。

【問題（例）】 1 (2) 自然数

問題例

下のアからオまでの数の中から自然数をすべて選びなさい。

ア：-5 イ：0 ウ：1

エ：2.5 オ：4

正答

ウ・オ

<分析>

☆誤答

イ・ウ・オと解答している。	30.3%
ア・イ・ウ・エと解答している。	9.1%
ウ・エ・オと解答している。	1.2%
上記以外の解答	10.3%
無解答	0%

☆正答率

全国	40.6%
県	39.2%
本校	49.1%

- 全国・県に比べ高い正答率となっている。
- 自然数の知識がしっかりと理解できている。
- 全国・県とともに本校でも誤答で一番多かったのが、0も自然数であると考えてしまったことである。もう一度確認する必要がある。
- 整数・自然数・正の数等の数の範囲の部分はいくさんの言葉と同時に、範囲がそれぞれ違うので、繰り返しの説明が大切だと感じた。

【効果があったと考えられるこれまでの取組】

- ・毎時間の教育補助員の活用
- ・授業中、分からなくなったり、悩んだりしたときに周りの人に聞ける雰囲気づくり
- ・スモールステップ発問による全員参加の学習
- ・定期試験後の試験結果をふまえての解説とテスト直しの実施

【問題（例）】 13 (1) 確率

問題例

表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を続けて投げたところ、はじめから3回続けて表が出ました。さらにもう1回投げて、4回目の表と裏の出方を調べます。4回目の表と裏の出る確率について、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア：表の出る確率の方が裏の出る確率よりも大きい。

イ：表の出る確率の方が裏の出る確率よりも小さい。

ウ：表の出る確率と裏の出る確率は等しい。

エ：表の出る確率と裏の出る確率の大小は決まらない。

正答

ウ

<分析>

☆誤答

ア	6.1%	イ	3.0%
エ	12.1%	無解答	1.8%

☆正答率

全国	66.0%
県	65.9%
本校	77.0%

- 「同様に確からしい」ことの意味をしっかりと理解している。
- 前の試行が次の試行に影響しないことを理解している。
- 確率の問題に対する理解は高く習熟しているといえる。

【効果があったと考えられるこれまでの取組】

- ・毎時間の教育補助員の活用
- ・授業中、分からなくなったり、悩んだりしたときに周りの人に聞ける雰囲気づくり
- ・スモールステップ発問による全員参加の学習
- ・定期試験後の試験結果をふまえての解説とテスト直しの実施

<数学B>

【領域別】

- 関数の領域以外は、すべて全国平均を上回っている。
- 特に数と式の領域の正答率が高い。
- 選択式の問題では正しい答えを選択することができる。その反面、記述式の問題を苦手としている傾向がみられる。

【問題（例）】 6 (1) 場合の数

問題例

美咲さんは、数当てゲームを行うために、次の手順を考えました。

手順

- ① 最初の数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤ ④の数に14をたす。

この数当てゲームは、手順通りに求めた数を教えてもらい、その数から、最初の数を当てる遊びです。

最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書きなさい。

正答

35

<分析>

☆誤答

5と解答している。	0%
上記以外の解答	14.5%
無解答	5.5%

☆正答率

全国	76.4%
県	75.5%
本校	80.0%

- 問題を理解し、示された手順で正しく計算することが出来ている。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることが出来ている。
- 無解答生徒は全国12.8%・県13.7%に比べて本校は少ない。問題を解こうとする意識が高いことが分かる。しかし、問題に取り組んだ生徒が多いことも要因の一つだが、正答以外の解答を出している生徒が、全国・県よりも多い。正しい計算をできるように、基本計算を丁寧に行う必要がある。

【問題（例）】 6 (3) 数学的な見方・考え方

問題例

手順の⑤を変えて、手順通りに求めた数を5でわると最初に決めた数を当てることのできる新しいゲームを作ります。

- ① 最初の数を1つ決める。
- ② ①で決めた数に10をかける。
- ③ ②の数から8をひく。
- ④ ③の数を2でわる。
- ⑤

上の□に当てはまる言葉として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア ④の数に4をたす。
- イ ④の数から4をひく。
- ウ ④の数に10をたす。
- エ ④の数から10をひく。

正答

ア

<分析>

☆誤答

イと解答している。	7.9%
ウと解答している。	11.5%
エと解答している。	10.9%
無解答	6.7%

☆正答率

全国	52.9%
県	52.0%
本校	63.0%

- 全国・県の平均と比べると、計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる。
- 数学的な見方・考え方が身につけてきている。

<質問紙調査から>

<p>【(例1)】</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none">・1, 2年生のときに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。 <p>回答結果</p> <ul style="list-style-type: none">・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」は、84.8% (全国は73.8%) <p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none">・他にも「1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。」「1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。」等の質問においても良好な結果であり、本質問との関連が伺える。	<p>【(例2)】</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none">・普段(月～金曜日)、一日当たりどれぐらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。 <p>回答結果</p> <ul style="list-style-type: none">・2時間以上する割合は、27.9% (全国は30.1%) <p>(分析)</p> <ul style="list-style-type: none">・携帯電話、スマートフォン、テレビなどの情報メディアに接触する時間が多いのは全国的な傾向です。SNS等に係るトラブル、事件を含め、このような機器の使い方、モラルなどは、今後も大きな課題です。・また、「3時間以上」は14.0%と、一部には、かなりの依存傾向を持つ生徒の状況もうかがえ、地域や家庭、学校との連携による啓蒙活動等の取り組みも今後の課題。
---	--

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「平成28年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会）より抜粋

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年、中学校第1・2・3学年 原則として全児童生徒

3 調査実施日

平成28年4月14日（木）

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

中学校第1学年 国語、数学

中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

(2) 質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
話すこと・聞くこと・書くこと	4	56.9%	56.7%	4	59.0%	54.9%	4	50.2%	51.9%
読むこと	9	52.9%	53.1%	9	52.9%	52.0%	9	60.5%	57.4%
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	64.8%	62.6%	17	65.0%	62.0%	17	54.4%	56.8%

数学		第1学年		
教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校領域	数と計算	12	63.8%	62.8%
	量と測定	9	63.4%	63.2%
	図形	4	75.8%	75.0%
	数量関係	7	62.0%	60.5%

数学		第3学年		
教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
中学校領域	数と式	14	65.5%	66.3%
	図形	9	69.6%	67.6%
	関数	5	52.7%	46.8%
	資料の活用	4	64.8%	57.9%

※ 数学の調査においては、第1学年の内容は小学校の学習内容から出題されています。また、第2学年においても一部小学校の学習内容から出題されています。

数学 第2学年										
教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)		教科の領域等		設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)
小学校領域	数と計算	3	59.5%	61.3%		中学校領域	数と式	12	67.6%	67.6%
	量と測定	1	48.4%	48.0%	図形		6	60.6%	59.1%	
	図形	1	53.5%	61.6%	関数		5	64.3%	59.9%	
	数量関係	1	34.6%	29.7%	資料の活用		3	54.7%	45.1%	

英語	第2学年			第3学年		
	教科の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県の平均正答率 (%)	設問数	本校平均正答率 (%)
聞くこと	10	64.0%	60.6%	10	69.6%	65.5%
話すこと	-	-	-	-	-	-
読むこと	21	61.6%	57.4%	23	64.1%	61.9%
書くこと	7	61.9%	57.0%	7	43.0%	41.5%

<生徒への質問紙調査> (主な結果:「規律ある態度」に関する項目の結果)

※ 達成率:「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計)と回答した割合

上段:本校の達成率、下段:県の達成率、 は80%以上

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	98.7	95.0	93.3
		97.6	97.1	95.9
	② 授業開始時刻	97.4	96.9	93.3
		98.1	97.1	96.3
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.5	87.4	86.7
		92.3	90.8	89.7
④ 整理整頓	86.3	83.0	84.2	
	85.7	84.3	83.3	

○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	81.7	74.8	81.8
		85.7	84.0	81.7
	⑥ 返事	91.5	84.3	83.6
		91.3	87.1	86.3
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
⑦ ていねいな言葉づかい	90.2	89.9	92.7	
	92.3	90.1	90.3	
⑧ やさしい言葉づかい	90.8	84.3	86.1	
	89.9	84.6	84.5	
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	93.5	91.2	92.1
		92.0	87.5	86.0
	⑩ 話を聞き発表する	73.2	67.3	67.3
		77.6	67.7	66.4
	6 生活のきまりを守る			
⑪ 集団の場での態度	94.1	87.4	89.7	
	93.6	91.2	91.6	
⑫ 掃除・美化活動	79.7	76.7	86.1	
	87.9	83.7	82.2	

本校の学力向上の取組

※各校が調査結果を分析し、学校として今後どのように取り組んでいるかについて、「授業における取組」、「授業以外の取組」等の方策を掲載する。

- ・課題解決に向けた取組（現在の取組状況、今後考えられる取組内容）
- ・授業での取組、授業以外での取組
- ・グラフや図、写真などを取入れて視覚的に訴える
- ・家庭での取組へのお願い 等

授業における取組

1 個別指導の徹底

- (1) チームティーチングや少人数指導を活用したきめ細かい指導を推進します。（数学・英語・保健体育・社会等）
- (2) 単元、授業毎に学習内容の振り返り活動を通じ、基礎・基本の定着を図ります。
- (3) ワークシートを用いた単元、授業毎の達成度の確認をします。

2 言語活動の充実

- (1) 全ての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流、伝え合い、教えあいの時間を確保します。
- (2) 授業の中に、計画的に言語活動を充実させる場面を設定し、思考力・判断力・表現力を高める指導を推進します。

3 学習に対する態度の育成

- (1) タブレットなどICT機器を活用した授業など、疑問や探究心を湧き立たせるような教材や指導を推進します。
- (2) 学習環境を整え、教室における学習環境の整備、学習のユニバーサル化の推進、学習ルーム、学習支援室の充実、活用に努めます。
- (3) 授業規律の定着のため、「授業の約束」「発言の仕方」を指導します。
- (4) 生徒の関心・意欲・態度を高めるための教材・教具の準備、動機づけの工夫を推進します。

授業以外の取組

- (1) 朝読書による落ち着いた環境の醸成を図ります。
- (2) 定期テスト前の補充学習会の充実を図ります。
- (3) 長期休業中の全学年での基礎的学習の補充の取組を推進します。

2 家庭学習の習慣化

- (1) 学年毎の学習内容に応じた時間の家庭学習に取り組めるよう指導します。
- (2) 学習課題の適切な精選、明確な指示、確実な点検を行います。
- (3) 新入生説明会や保護者会、三者面談における説明と協力の要請を図ります。

本校の学力向上プラン

学力向上全体計画

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法等関係法規
- 学習指導要領
- 埼玉県教育課程編成要領
- 埼玉県教育振興基本計画
- 指導の重点・努力点（県教委）
- 桶川市教育委員会の重点施策
- 指導の重点・努力点（市教委）

【学校教育目標】
 <基本目標>
 変化・発展する社会の中で自主・自立できる生徒を育成するため
 ◎ 学ぶ意欲と豊かな人間性にあふれ、進んで心と体を鍛える生徒の育成
 ○ 明るいあいさつ ○ 輝くひとみ ○ みなぎる力

- 生徒の実態
- 保護者の願い
- 教師の願い
- 地域の実態・要望
- 社会情勢の変化
- 学力向上に係る「学校課題」

【学校経営方針】
 ○ 学校教育目標が学年・学級経営に具現化され、授業をはじめとする全ての教育活動に生かす。
 ○ 全教職員が意欲的に経営・運営に参加し、叡智を結集し、学校の機能が十分に発揮させる。
 ○ 人間関係を大切にし、互いの信頼のもとに協力し合い、教育活動を遂行する。

【本年度の重点・努力点】
 ○ 生徒の可能性を見だし、よさを伸ばす教育を推進する。
 ・ 楽しく分かる授業を展開し、確かな学力をつける。
 ・ 規律ある態度をもとに、自尊感情を育てる。
 ・ 清掃活動を徹底し、古い校舎をきれいに使用させる。
 ・ 多日数欠席生徒の解消に努める。

【本年度の課題と解決方法】
 ① 規律ある態度の育成及び生徒との心の繋がり
 ② 学校評価及び学校関係者評価を生かした教育活動の改善・充実
 ③ 「全国および埼玉県学力・学習状況調査」結果の有効活用
 ④ 多日数欠席傾向生徒への組織的対応
 ⑤ 日常的な教職員と生徒がふれあう時間の確保
 ⑥ 特色ある学校づくり、地域に開かれた学校づくりの推進

各教科の指導の重点
 ○基礎的・基本的内容の指導の徹底（少人数授業や小集団による学習など）
 ○生徒の学ぶ意欲を高める指導方法の工夫（体験的な学習や問題解決的な学習等）
 ○評価の客観性・信頼性を高める評価研究の充実

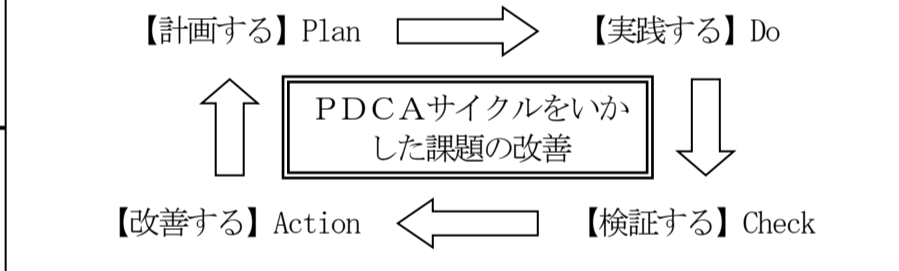
【本校の課題（学力向上に関する）】
 ○ ものごとを最後までやり遂げることで得られる充実感・達成感の経験が少なく、「粘り強さ」が不十分であり、「書く」「調べる」「発表する」の力が不足している
 1 規範意識・自尊感情、学習意欲・学習規律の低下
 2 言語活動、体験活動の不足
 3 家庭学習の習慣化

各領域等の目標及び内容
【総合的な学習の時間】
 ○自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成
 ○自己の生き方を考えることができる力の育成
 <テーマ>
 1年「桶川再発見」、「福祉」
 2年「桶川の産業に学ぶ」「国際理解・古都に学ぶ」
 3年「健康に生きる」「共に生きる」「卒業に向けて」

【国語】
 ○表現力（「書く」「話す」）の育成
 ○思考力（「読む」「聞く」）の育成
 ○学習形態、教材開発の工夫
 ○学習意欲を喚起する授業展開と、活動場面の効果的な設定
【社会】
 ○学習形態、課題設定の工夫
 ○社会的な出来事から興味・関心を引き出し、意欲を喚起する工夫
【数学】
 ○学習意欲を引き出す授業展開、教材開発の工夫
 ○学習形態（少人数、TT指導）の工夫
 ○個々に応じた指導・評価の工夫
【理科】
 ○主体的活動を促す指導・評価方法の工夫
 ○理科室の整備・環境作りの推進
【英語】
 ○基本的な語彙や文型の定着
 ○「話す」「書く」に対する関心を高める工夫
 ○コミュニケーション力を高める工夫

①課題を改善するための計画
 ・全職員の共通理解、共通行動
 ・保護者、地域への広報活動（保護者会、学校だより、HP等）
 ・学校課題研究の実践化
 ・シラバスの作成

②計画に基づく指導の実践
 ・各教科等における指導の実践
 ・校内研修の充実と実践
 ・小学校等との連携
 ・保護者、地域との連携



④課題の絞り込み
 ・次年度の教育計画、全体計画、年間指導計画への反映
 ・教科等の指導改善プランの見直し
 ・校内分掌体制の見直し
 ・シラバスの作成

③実態の把握
 ・学力調査や学校生活アンケート等による生徒の実態把握
 ・学校評価及び学校関係者評価による本校教育活動の成果と課題の把握

【課題を把握する指導の設定】
 ・「平成28年度 埼玉県学力・学習状況調査」（国語、数学、英語）
 ・「平成28年度 全国学力・学習状況調査」（国語知識、国語活用、数学知識、数学活用）
 ・確認テスト（4月、10月実施、5教科） ・定期テスト（各学期）
 ・学校課題研究における各教科の現状分析

改善の観点	I 指導内容・指導方法の工夫	II 教育課程の工夫・発展	III 学習評価活動の工夫	IV 家庭・地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎・基本の確実な定着を図り、それを活用する場を設定する。学習内容の系統性を図り、指導方法・形態を工夫する。	生徒の実態を把握しながら、系統的な指導計画の作成や教材の工夫・開発・準備等を行う。	生徒のよい点や達成状況を積極的評価することにより、一人一人の生徒を伸ばす。そのための評価方法や手立てを工夫する。	基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせることで、社会性の育成や自尊感情の向上を図る。
課題解決のための具体的取組（場と方法）	○「授業の約束」による学習規律の徹底 ○生徒の実態や単元の特性に応じた指導の工夫 ・少人数、TT指導、小集団学習 ○定期テストに対する取組 ・取組表の作成と実践、放課後補習、テスト直しノート作成等 ○言語活動の場の設定 ・朝読書、1分間スピーチ等 ○基礎的学習内容の補充（夏期）	○年間指導計画の実践・工夫・見直しと作成 ○教材・教具の準備・補充 ○言語活動及び体験活動の充実 ○情報の活用や情報モラルの指導の工夫	○年間指導計画に基づいた評価規準の作成・見直し ○学習目標の明確化とシラバスの作成 ○授業における生徒の自己評価や相互評価を通し、自己評価能力や自尊感情の向上 ○基礎的内容（漢字、計算、英単語）の定着を図る小テストや定期テストの工夫	○家庭への啓発と評価の実施 ○適切な宿題の在り方（学習量、計画・継続性）の工夫と家庭学習の習慣化 ○家庭学習ノートの習慣化 ○PTAと協力してのあいさつ運動の実施
関連する活動、行事、組織等	○朝読書 ○教育支援担当訪問での公開授業 ○学力向上推進委員会	○校内研修 ○課題研究推進委員会 ○教育課程編成委員会	○シラバス ○定期テスト個票 ○通知表	○学校・学年だより ○学校公開、授業参観、保護者会 ○PTA総会

保護者・地域の皆様へ

今回の調査結果では、昨年度に引き続き殆どの生徒が「学校の規則や規律を守り、仲間と協力して何事にも意欲的に取り組んでいる。」という望ましい結果となりました。とりわけ、学習状況では県や全国平均と比較しても「授業の内容がよくわかる。」「学習したことは、将来役に立つと思う。」「授業の予習や復習など、自分で計画を立てて勉強している。」などの割合が高く、多くの生徒が学校生活全般や学習に対して前向きで意欲的に取り組んでいることがわかります。また、これに付随して学力状況調査結果においても県や国の平均をこえる、ものが増え、多くの項目で、着実な成果が見られる良い結果となりました。

しかし、気になる課題としては、「携帯電話やゲームなどの依存傾向にある生徒が少なくない」点があげられます。ここ数年、コミュニケーション能力の低下、携帯・インターネットなどに関わるトラブルが校内で発生しています。このため本校では、授業だけでなくあらゆる教育活動を通じて生徒の自主性や自発性、コミュニケーション能力等の育成を図る取組を実施しています。また、情報モラルを含めた道德教育の充実を図り、生徒たちの「豊かな心」「確かな学力」の育成を図って参ります。今後とも保護者、地域の皆さまのご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。